

看護とハイテクノロジー

小川鏡一（東京電機大学理工学部）

看護業務は医療行為を含み、国家試験にパスし免許を与えられた人たちが看護者としてその業務にたずさわっている。こうした看護職に携わる人々に対し、きつい、汚い、危険な3K職場といわれることがある。それにだれが名付けたか知らないが、5Kといって給料安い、休暇とれず、結婚できず、化粧のらず、薬に頼るという言葉もささやかれている。この職業にやりがいを感じるというのは4.8%でやりがいを感じないが51.9%、仕事を辞めたいと思ったというのは何と91.3%もいるという。そのほかにも、満足できる看護ができていない86%、足がだるい69.2%、目がだるい63.5%、不安な点がある60.6%との訴えも多い。疲れが翌日まで残る、いらいらする、肩が凝る、腰が痛いという訴えも50%を越えているという。

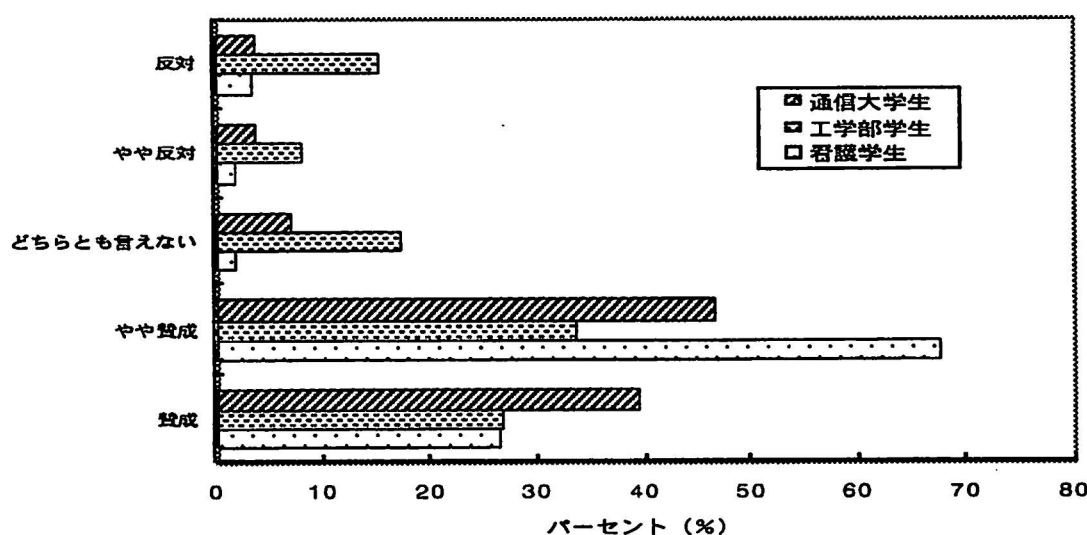
こうした実状である看護の世界にロボットを含む機械技術を導入し、患者は安楽にケアされ、看護者も安全で楽に患者をケアできる環境が望まれる。看護業務の中に機械を導入するのは問題があるかもしれない。そこで、日英両国の看護者に対し機械導入の意向を調査した。日本の看護者からは、45%が賛成、51%がどちらともいえない（条件付きで賛成）、反対が1%、無回答が3%であった。それに対し、英国では79.9%が賛成、10.5%が反対、9.6%が無回答であった。

また、機械に要望する13項目の機能に対する第4位までの結果は、以下の通りである。日本では、操作简单（22.4%）、静かな動き（17%）、持ち運び便利（13.4%）、多機能（8.3%）と続く。これに対し、英国では、操作简单（16.7%）、持ち運び便利（11.4%）、簡単機能（8.3%）、デザインの良さ（7.4%）と続いた。両国とも第1位は簡単操作である。日本の第2位は静かな動きに対し、英国ではその静かな動きは2.9%と少なく、第10位である。一方、英国の第4位にはデザインの良さであるが、日本のそれは1.2%と少なく、これは第13位に位置している。国民性の違いが看護の現場にも現れていて興味深い。

看護学生184名（平均年齢19歳）、工学部大学生192名（平均年齢20歳）、通信教育大学生28名（平均年齢40歳）にもロボットを含むハイテクノロジーを看護の中に導入することの賛否を賛成、やや賛成、どちらとも言えない、やや反対、反対の5段階でたずねた。その結果が下の図である。賛成とやや賛成を含めると多くの学生はハイテク導入に賛成している。看護学生以外は、患者の立場で回答していると考えられる。したがって、反対と回答した工学部学生は比較的多いことを考えると、患者一般からの意見を聞くことが今後の課題として残されている。

以上、看護の世界にロボットを含むハイテク導入調査の一端を紹介した。看護者は白衣の天使といわれる。入院すればそのことが直ちに理解できる。過酷な看護の職場を技術の力でやりがいのある職場にしたいものと願っている。

看護にハイテク導入の賛否



文献 1) 立木啓子：看護不足，朝日ソノラマ，1991

2) 小川鏡一：看護者の腰痛と補助機器の要望に関するアンケート調査，Quality Nursing, Vol. 5, No. 5, 69-75, 1999